

エピソード5

～黒いくつのわけ～

50代 中学校教諭 男性

ある中学校で、入学式が終わって一週間ほど過ぎた頃、生活指導の先生が1年生の下駄箱を点検していて、校則違反の黒い運動靴を発見しました。その先生は、鬼の首でも取ったようにその靴を持って職員室に戻り、学年主任に靴の持ち主はどんな生徒か尋ねました。学年主任は驚きもせずに答えました。「慌てていたんですね。この靴に6年2組と書いてありますよ。大急ぎで家を出るとき、慣れた小学校の靴と履き間違えてしまったんですね。」

生活指導の先生は、生徒たちに校則を守らせ校内秩序を維持することを一番に考えます。ですから生徒の校則違反を見逃すわけにはいきません。

人間にはミスや失敗はつきものです。それは悪意から生じたわけではありません。しかし、このエピソードのように、生徒の行動の背後にある心情や理由を無視して校則違反を取り締まる生活指導のやり方を、管理主義と言います。

経験豊かな学年主任は、くつを間違えた生徒の心情がわかります。校則を破ろうとした行為ではないことは明らかです。

実は、生徒指導の先生も学年主任の説明を聞いてほっとしたのではないのでしょうか。だって、この生徒が校則を無視して自分を困らせる生徒ではないことがわかったのですから。しかし、この生活指導の先生が、少し想像力を働かせれば、学年主任と同じように黒い靴の理由に気づいたはずです。なぜなんだろうと、相手の気持ちを想像する心情をカウンセリングマインドと言います。

ところが、このカウンセリングマインドを無視する教育方法が話題になったことがあります。ゼロ・トレランス方式という考え方です。20年ほど前にアメリカで始まった学校荒廃の対処法です。「不寛容」と訳しますが、細かな校則を定め、違反者には一切の例外を認めず厳格に罰則を適用するというものです。一時、文科省も日本への導入の検討がなされましたが、管理主義の極みです。生徒の心情を顧慮しない方法はゼロ・トレランス方式に限らずどんなものでも「教育」の方法ではありません。生徒管理の方法です。

そして、この靴の扱いをどうするか、ここが知恵の絞りどころです。元通りに下駄箱に戻し何事も無かったように済ませるか、あるいは担任がさりげなく彼のところに行き、「靴を間違えたようだね、恥ずかしかったら、先生が帰りまで預かっておいてもいいよ。」と声をかけておくべきか…。ひょっとしたら靴の持ち主は自分の失敗をひどく気にしていて、逃げ出したい気持ちでいるのかも知れませんから。